民俗資料館だより

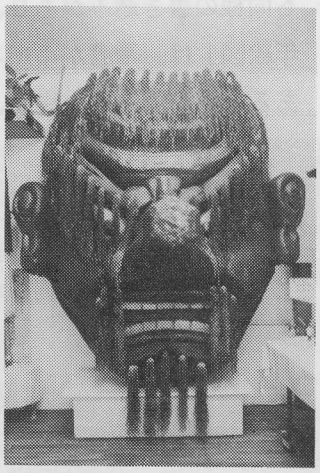
第3号　1996・3・20
発行　加茂市民俗資料館
住所　加茂市大字加茂229－1
電話　0256－52－0089

加茂の特色を生かした展示を心がけて

加茂市民俗資料館長　田澤弘一

日頃、皆様方には民俗資料館をご利用頂いておりますとともに、ご指導・ご協力をたまわり厚くお礼を申し上げます。

さて、当資料館には、祭礼の資料、古文書や絵図、土器などの考古資料、産業に関する工具や製品、農家・商家の再現コーナーなど、私たちの先人の生活の中から生まれた貴重な民俗・文化資料を1,200点ほど展示いたしております。



戦後、日本経済のめざましい発展とともに、環境も生活様式も大きく変化してきました。今は、あらゆる物が簡単に手に入り、便利で快適な生活が可能な時代でありますが、その反面古い資料はほとんどの家庭では、残っていないのが実情だと思います。そこで資料館では、かつてはどこでも見られ使用されていたものを主体にし、加茂の特色を生かした資料の展示を心がけており、小学校の社会科の学習にもご利用頂いております。

どうか今後もお気軽にご来館くださることを心からお待ち申し上げております。

資料収集についてのお願い

家々が次々と新しくなり町並みが近代化していった時、古くからあった家と共に失われていった家具・民具・用具・道具・農具・文書等々、諸々の資料があったと聞く。

資料館創設の時以来、市民および多数の協力者のお蔭で数多くの資料が寄せられた。その数は数千点にもおよぶ。今後の資料確保についても提供者の好意にすべて期待することが大きい。前述の失われた資料はもう二度とお目にかかれない貴重な物が多かったのではないかと思う。提供くださる方にはお礼も出来なく心苦しいのであるが、家の改築、新築や蔵の整理等で不要になった資料は捨てる前に是非情報を寄せて頂きたい。そして先人の遺産を出来るだけ多く残して後世に伝えるよう努力していきたい。

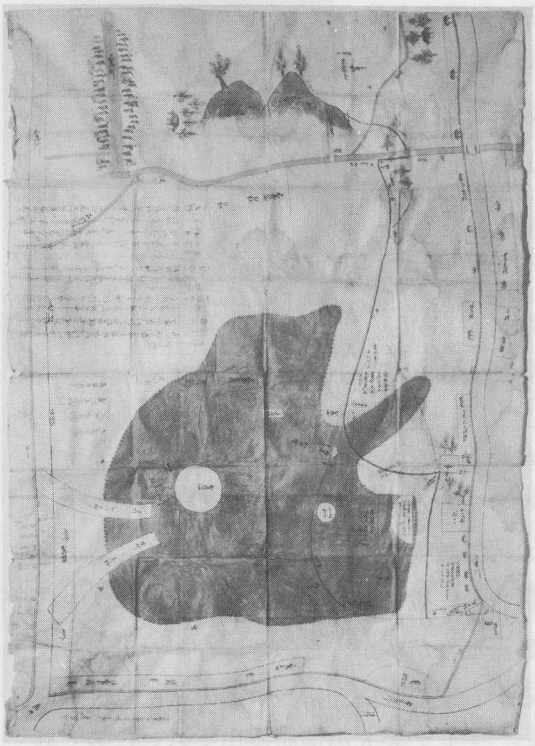
Ⅰ．慶安元年加茂・下条境界裁許絵図

加茂市文化財調査審議会委員　関　正平

民俗資料館一階の第１展示室、絵図・古文書の陳列ケース左側に「慶安元年加茂・下条境界裁許絵図」（模写図）が展示されている。この絵図は新発田藩領の加茂村と同藩の分家旗本溝口宣秋などの知行所である下条村・天神林村との境界争いについて、幕府評定所が慶安元（1648）年11月９日に裁定を下した時の幕府裁許絵図である。またこれは境界争いの絵図であるとともに近世初期の加茂郷の村位置や道川筋・潟・社・小字などを示した最も古い絵図でもある。

このいわゆる「慶安元年絵図」と呼ばれる絵図は、筆者の管見では加茂市内に３幅の残存が確認されている。その１幅目が「加茂市史」（昭和50年刊行）編纂中に確認された千野金太郎氏所蔵の「慶安元年絵図（写本）」（以下千野本）、２幅目が昭和50年に行った市内の古文書調査中に確認された市川浩一郎氏所蔵の同じく「慶安元年絵図（写本）」（以下市川本）、３幅目が平成元年６月に確認された矢立地区、斎藤務氏所蔵の大庄屋浅野家旧蔵の「慶安元年絵図」（以下斎藤本）である。

千野本の絵図は、絵図の裏側隈に「安永四（1775）年乙未林鐘（旧暦６月のこと）中七日写之、本紙ヨリ三寸中程ニテツメル」とあり、原図の写であることが確認できる。市川本の絵図も同様の書き込みがあり、原図の写であることがわかる。因みに陳列ケースに展示の「慶安元年絵図」は、筆者が市川本を昭和50年にさらに模写した図である。なお、市川本は写し絵図である確認を取らないまま、昭和50年１月に古文書として加茂市文化財に指定されている。



慶安元年加茂・下条境界裁許絵図
（千野金太郎氏所蔵の絵図）

このような経緯の中で筆者が平成元年６月11日、初めて矢立新田の庄屋だった斎藤家の史料調査を行った際、当家八代目斎藤真幸の作と言われる「ごぜ口説地震の身の上」などの版木とともに「慶安元年絵図」が発見された。しかもそれは写しではなく、慶安元年の絵図そのものであった。絵図に付随した史料から、斎藤家の絵図は、同家が矢立新田の名主に就いた際（元禄３年1690）、加茂組大庄屋の浅野三郎右衛門から絵図を譲られ、以来同家で持ち伝えて来たことがわかる。なお、斎藤本の絵図は平成２年５月に加茂市文化財に指定されている。

展示の「慶安元年絵図」（模写図）に因んだことなどを記したが、この絵図は境界争いの裁許絵図である。即ち村から差出した絵図の裏側に幕府評定所の判決文が「裏書」として書かれている。この絵図の場合、石谷十蔵・森川半弥・久世三四郎・大久保右京亮の四名の評定所役人が裁定を下している。

Ⅱ．平成７年度の歩み

1.　入館者数

平成７年４月～平成８年２月			
	市　内	市　外	計
大　　人	1,456	1,014	2,470
小中学生	713	166	873
計	2,169	1,180	3,349

昨年度加茂山公園内に移転し、来館者の便もよくなったのか、特にゴールデンウィークや雪椿祭りには多数の入館者を迎えた。また、県外からも多数みえられ中には台湾の方もおられた。

2.　資料収集の状況

本年度は11名２団体の方から42件528点のご寄贈を賜りました。お礼を申し上げ紹介させていただきます。

＜寄贈品名＞

・燭台	１点	・張り板	１点	・炬燵用具	２点
・瓦	44点	・焼酎甕	６点	・餅搗き用具	４点
・唐獅子木彫り	１点	・火のし	１点	・出土土器	20点
・人形	11点	・草履	４点	・長持ち	１点
・叺編み機	１点	・型染用型紙	11点	・傘鉾	１点
・松鉾	１点	・各種提灯	３点	・フツ	３点
・裃	３点	・岡持ち	３点	・升	３点
・行李	２点	・竹ざる	２点	・矢立て	１点
・物置台	１点	・算盤	１点	・巻き尺	１点
・竿ばかり	１点	・消防用頭巾	１点	・木槌	１点
・釘隠し	６点	・打印	１点	・印鑑箱	１点
・重札箱	１点	・乱れ籠	１点	・原稿用紙版木	６点
・石ばん	１点	・各種印章	９点	・町内旗一式	７点
・ブラスバンド用太鼓	４点	・写真	３点	・古文書、他	352点

＜寄贈者ご芳名（五十音順　敬称略）＞

青木トヨ　安中ヨシ子　石黒チイ　小柳恵子　桑原栄治　小林昭吾　高橋高衛
田村伴一　坪谷清作　弦巻孝一郎　吉田修平　渡辺孝司　西光寺　本町

3.　レファレンス・サービス（民俗資料館への問い合わせ）

当資料館には収蔵品や展示品、市の歴史・人物や遺跡等に対する問い合わせが、来館・電話・文書等、年間を通して数多くある。平成７年度（４月～２月）は市内は勿論県内外より42件もの数にのぼる。中には遠く徳島県より来訪された方もおられる。その問い合わせには出来るだけ調査しお答えしているが、時には全く資料や手掛かりもなくお答えできない場合もあるし、逆に教えられることもある。その内の主なるものをいくつか紹介してみる。

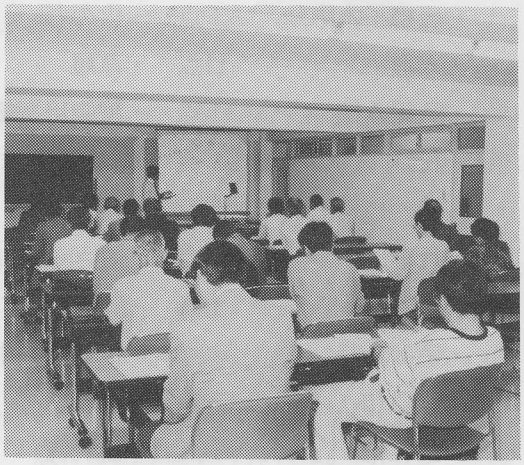
・加茂が発祥の地と言われているマカロニーについて現在どうなっているのか。
・加茂川の水害と河川の変遷について
・加茂の桐タンスについて
・「越後国青海庄垣生田村領家地頭職」と伊達氏、石田氏等の史料について
・三条・長尾氏の系図及び上杉謙信と対立した豪族の氏名について
・神道無念流免許皆伝者「鷲尾甚助」の資料及び秘伝書について
・茅葺き屋根のある民家の所在について
・加茂山要害城砦跡について

4. 館外活動

① 古文書講座

「加茂市に残る古文書の読解を通して加茂市の歴史を学ぶ」という受講者と講師の意気込みが一体となって充実した講座となった。数えて11回目になる。

・開催日　6月24日　7月15日　8月5日　8月19日　9月9日
・会　場　加茂市公民館　第一研修室
　（時間　午後7時～午後9時）
・講　師　加茂市文化財調査審議会
　委　員　関　正平氏
　同　長谷川昭一氏
・受講者　34名
・内　容　ア「寛文12年4月9日
　御宮御建立之事・御宮入目之事」
　イ「寛政6寅年　御林反別木数書上張
　越後国蒲原郡湯川村」
　の古文書を解読し、(ア)では青海神社建立の経緯を(イ)では新発田藩の山林政策を通して加茂の歴史を学習した。



② 歴史講演会

講師は自身の職務の傍ら収集した現代の資料と古文書を駆使し、受講生に分かりやすく講義された。

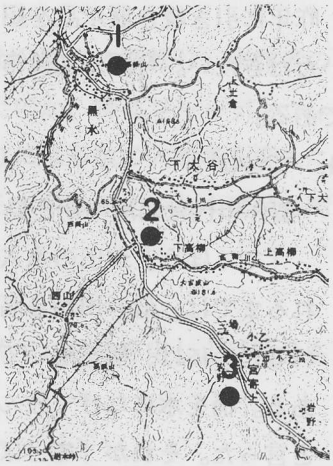
・開催日　10月21日
・会　場　加茂市公民館　第一研修室
・演　題　「新発田藩の山林政策と加茂」
・講　師　加茂市文化財調査審議会委員　長谷川　昭一氏
・参加者　18　名
・内　容　新発田藩が行った山林政策を文献史料・自身が収集した資料から解きあかし、特に加茂組において藩有林が多い事実などを述べられた。

Ⅲ．加茂市内遺跡について

1.　市内最古の遺物について－展示品の紹介をかねて－

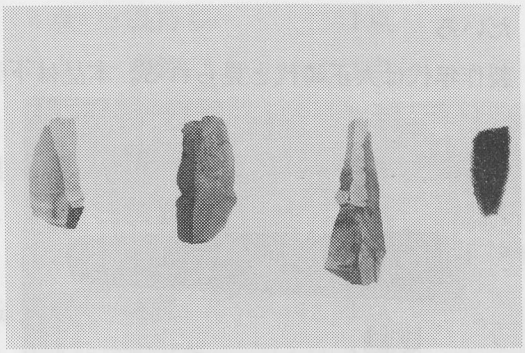
加茂における最も古い先住人の足跡、つまり最古の遺跡は、土器がまだ発明されていない、いわゆる旧石器時代、あるいは先土器時代や岩宿時代などと呼ばれる頃にさかのぼることが明らかとなっています。

現在までのところ七谷地区の牛ケ沢Ｂ遺跡（宮寄上）で３点、山王原遺跡（下高柳）で１点、岩野原Ｂ遺跡（宮寄上）で５点の旧石器時代の石器が採集あるいは出土しています。この三つの遺跡はいずれも加茂川の河岸段丘上に立地し、約２㎞の間隔で点在している状況が読み取れます。



1　岩野原Ｂ遺跡　2　山王原遺跡
3　牛ケ沢Ｂ遺跡
遺跡位置図（S＝1/10万）

石器の石材は山王原遺跡のものが黒曜石、ほかはすべて頁岩ですが、黒曜石は地元では採取できず、他所から持ち込まれた可能性があります。これらの石器は製作技法の特徴などから、石刃技法成立以降のものでおおよそ約３万年～１万４千年前頃のものと考えられています。当時の暮らしぶりはこの石器のみでは多くを語れませんが、今後発掘調査などのメスをいれることによって明らかにされていくことが期待されます。上記三つの遺跡以外にも旧石器人が加茂の山野を駆けめぐった遺跡がのこされていることが想像でき、興味は尽きません。



牛ケ沢Ｂ遺跡と山王原遺跡出土石器

2.　平成７年埋蔵文化財関係の概要

２月　大手町遺跡確認調査（須田地内）→遺物・遺構なし。

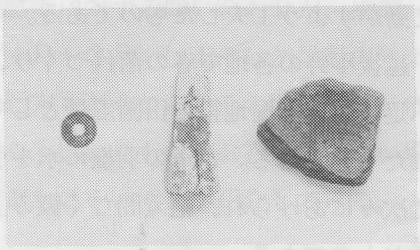
３月　「加茂市役所遺跡」発掘調査報告書刊行→縄文中期前葉主体。

８月　大谷地区詳細分布調査（七谷地内）→石器（縄文）・陶器（中世）などを採集。

10月　上條館跡確認調査（上条地内）→柱穴、陶器・古銭など検出。屋敷田遺跡と改称。
　　草生津遺跡確認調査（七谷地内）→遺物・遺構なし。

11月　市内遺跡詳細分調査（県教育委員会主催）
　　→加茂、下条地区を中心にあらたに約30地点で遺跡を発見。

この他に、平成６年調査の釜渕遺跡の整理作業と平成４年調査の川船河遺跡（田上町内）の報告書作成作業を資料館で実施しています。



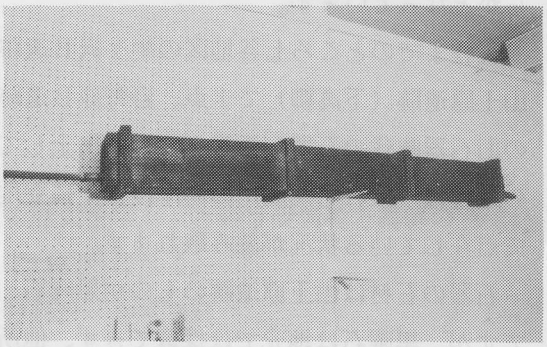
屋敷田遺跡出土遺物

Ⅳ．展示資料紹介コーナー

昨年に引き続き展示品を紹介し、貴重な資料のあることを知って頂き、一層の関心を持っていただきたい。今回は加茂市指定文化財のうち灌漑用具３点を紹介する。製作、使用地共加茂である。

1.　てっぽう

製作年代は明治中期と見られる。本品は下条地区の家で使用されたものである。

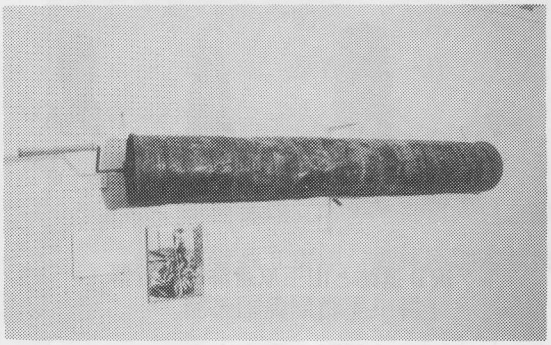


「てっぽう」が田の水入れ用として使用されるまでは、低い川から高い所の田に水を入れるためには、桶を用いて汲み入れたものである。桶を水になげて汲んだので振りつるべと言った。それが「てっぽう」が出来ると随分楽になったと言う。

「てっぽう」は押し上げポンプと同じく上方だけ開く辯がありピストンを上下すると水は上にあがったので手押しポンプと言っていた。

2.　だいろ

製作年代は大正時代と見られる。本品は下条地区で使用していたものである。

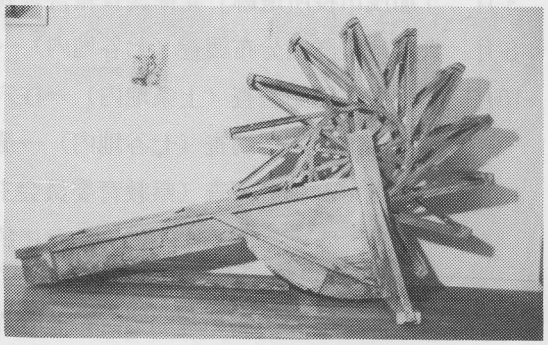


手桶くみから「てっぽう」と発展した灌漑用具もこの「だいろ」を使用して大量に汲み上げる事が出来るようになった。

「だいろ」は、古くはエジプトのナイル河付近で使用され、これが鉱山の水替えに佐渡金山に入った。大正頃には田の水揚げ用に使用された。一般には蛇腹樋と呼ばれた。筒の中に螺旋形の羽根がついていて、筒を廻すとその中を水があがって来るものでよく工夫されている。

3.　じゃぐるま

製作年代は昭和初期で、本品は住寺堀地区で使用したものである。



低い川から高い田に水を上げる灌漑用具のうち、人力で動かしたものとしては、労力も能率も最高に良いもので、手で働いた力を足で動かすよう工夫したものである。

越後平野の各地で春の苗代づくり、夏の水不足の時に低湿地帯の田園風景として眺められたものである。水車の羽根に水を引っかけて次々にあげられ、絶え間なく汲み上げたもので、農民の工夫創意の跡を知る資料として貴重なものである。

Ⅴ．新潟県・加茂市指定文化財の紹介

加茂には先人が残した多くの遺産がある。この貴重な遺産を文化財として後世に残したい。

◆　新潟県指定文化財

種　　別	名　　称（員数）	所 有 者（所在地）	指定年月日
考古資料	青海神社境内経塚出土品（５点）	青海神社	昭 37. 3. 29
彫　　刻	木造大日如来座像（１軀）	地蔵院	平 7. 3. 28

◆　加茂市指定文化財

種　　別		名　　称（員数）	所 有 者（所在地）	指定年月日
建造物		青海神社社殿（４棟）	青海神社	昭 50. 1. 12
		青海神社由緒碑（１基）	〃	〃
絵　　画		古川茂陵画像（１幅）	個　人	昭 50. 1. 12
工芸品		太刀（安綱・国次、２振）	青海神社	昭 50. 1. 12
書跡典籍		良寛遺墨（23点）	（加茂市文化会館）	昭 62. 8. 11
古文書		古川家文書（７点）	個　人	昭 50. 1. 12
		市川家文書（２点）	個　人	〃
		図書館文書（絵画２面）	（市立図書館）	〃
		浅野家文書（36点）	個　人	昭 62. 12. 6
		小柳家文書（108点）	個　人	〃
		斉藤家文書（２点）	個　人	平 2. 5. 15
考古資料		七谷水源池遺跡出土土器（３点）	（民俗資料館）	昭 50. 1. 12
		千刈遺跡出土土器（14点）	〃	〃
歴史資料		版木（15点）	個　人	平 2. 5. 15
芸　　能		加茂に伝わる後面	個　人	昭 56. 8. 11
民俗文化財	有　形	灌漑用具（３点）	（民俗資料館）	昭 50. 1. 12
		漢方薬製薬器具（一式）	〃	〃
		手加工時代の建具工具（130点）	〃	昭 53. 12. 12
	無　形	青海神社神事（鎮火祭・御粥神事）	青海神社	昭 50. 1. 12
史　　跡		勅使手植の欅跡	青海神社	昭 50. 1. 12
		明治天皇行在所跡	（北越銀行前）	〃
		加茂山要害城砦跡	（加茂山ハイキングコース）	〃
天然記念物		翁杉（１本）	青海神社	昭 50. 1. 12
彫　　刻		銅造阿弥陀如来立像（１軀）	谷泉寺	平 5. 9. 14
		木造元三大師座像（１軀）	雙璧寺	平 6. 12. 13
		木造二天立像（２軀）	〃	〃
		木造阿弥陀如来立像（１軀）	西光寺	〃

Ⅵ．入館者の声

平成６年11月、移転開館以来多くの方々が来訪された。かって下条時代をご存じの方。市内外から新旧を通して初めて訪問された方等々。その方々が残された言葉や注文をいくつか紹介し、今後の資料館のあり方を市民の皆さんと一緒に考えてみたい。

1. 新旧を通して初めて訪問された方

・非常にこじんまりしていてわかりやすい。

・展示されている資料が整理されている。

・加茂の産業について端的に知ることが出来る。

・この程度の広さでは展示スペースが狭すぎないだろうか。（もっと資料はあると思うが）

・現在の建物は何かの跡を利用したようであるが、今後、新しくする構想はあるのか。

・資料は展示されているものだけではないと思うが、それはどうするのか。

2. 旧下条時代を知っておられる方

・下条時代の展示数に比較して非常に少ない。がっかりした。

・こじんまりとしたのは結構だが、残った資料はどうしたのか。

・この建物では展示数が限られる。資料を寄付したくてもどうなるかが心配で出来ない。

・展示室が限られているようだが、特別展等の企画が出来るのか。

・市では新しい多くの建物が出来ているが、資料館の建設計画はあるのか。

・各地の資料館を観てきたが、他と比較して加茂は貧弱な部類に入る。

・下条時代にあったあの多くの資料はどこへ行ったのか。保管状況はよいのか。

まだまだ貴重なご意見もあったが紙面の都合で割愛する。何をどの様にすれば現在の状況下で訪問された方々に満足していただけるのか、アイディアを寄せて頂きながら考えてみたい。

Ⅶ．収蔵されている資料数

市民および協力者のお蔭で集まった資料は表のようであるが、展示室の関係で一部だけ入館者の目にふれる様な状態である。

平成７年度末現在の収蔵数及び展示数（展示数は内数）

	民俗資料	文書資料	写真資料	歴史資料	記録資料	考古資料	総　数
収蔵数	3746	1805	355	147	53	10069	16175
展示数	893	42	72	16		212	1235

未整理資料は考古資料数千点をはじめ民俗、文書資料等に多数ある。

編集後記

10年ぶりの大雪とか。平成７年度も終わろうとしている。民俗資料館も移転して２年目。多数の来館者があり、提供頂いた資料、レファレンスも多かった。民俗資料館としての使命をいくばかは果たしたのではないかと自画自賛しているところである。

この度、ご多用にもかかわらず玉稿をお寄せ頂いた関　正平氏（文化財調査審議会委員）に感謝申し上げる。今後、市民各位のますますのご協力をお願いする次第である。